

風しんの発生状況について(2019年2月10日現在)

2019年(平成31年)2月13日
長野県健康福祉部保健・疾病対策課

1 風しんの発生状況

2018年7月下旬以降、関東地方を中心に風しん患者数が大幅に増加しています。長野県でも2018年第33週(8月13日～8月19日)に患者が発生して以降、これまでに26人の発生を確認しました。

2018年以降県内で発生した26人のうち、男性は24人、女性は2人で、年代別では20歳代が3人、30歳代が4人、40歳代が13人、50歳代が5人、60歳代が1人です。地域別では、伊那、長野、大町、北信保健所管内が各1人、上田保健所管内が2人、佐久、長野市保健所管内が3人、諏訪保健所管内が6人、松本保健所管内が8人です。2019年1月以降は6人確認されていますが、うち4人は諏訪保健所管内で発生しています。風しんの予防接種歴はあり(1回)が1人、なしが7人、不明が18人です。

表1 2012年～2019年の発生状況 (長野県は2019年2月10日まで、全国は2019年2月4日まで)

年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
長野県	14	62	2	1	3	4	20	6
全国	2,386	14,344	319	163	126	93	2,917	367

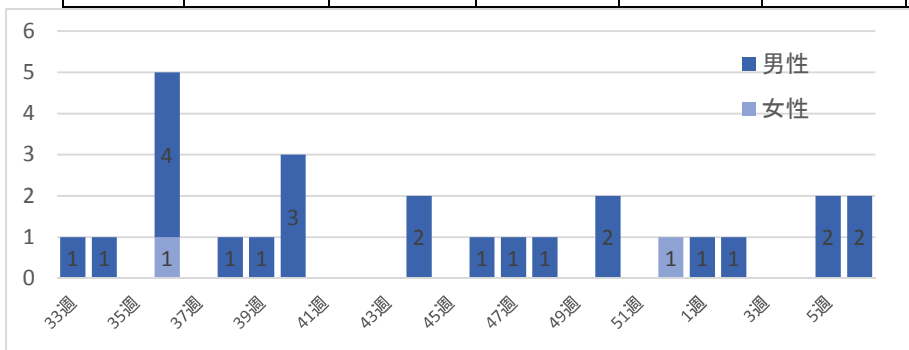


図1 週別発生状況(2018～2019年、長野県)

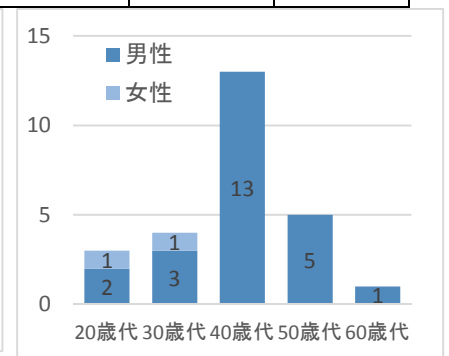


図2 年代別、性別発生状況
(2018～2019年、長野県)

2 検査実施状況

これら26例は、全て検査確定例です。PCR法で病原遺伝子が検出されたものが11例、IgM抗体により確認されたものが12例、PCR法とIgM抗体の両方で確認されたものが3例でした。

PCR法で確認された14例のうち、遺伝子型別が判明したものは8例で、この全てが1E型でした。この1E型は、今回の流行において全国で一番多く検出されている型です。

3 風しんの予防策

風しんは、麻疹(はしか)と同様に予防接種で防げる病気であり、個人で出来る有効な予防方法です。

予防接種法による定期接種の対象の方(第1期:1歳児、第2期:小学校就学前1年間)は、早めに確実に受けましょう。詳しくはお住いの市町村にお問い合わせください。

その他の方は、医療機関で任意接種(費用は自己負担)として接種することが出来ます。特に、妊娠を希望されている女性、抗体を保有していない妊婦の配偶者や同居されている方で、予防接種を2回受けていない方、予防接種歴や風しん罹患歴が不明な方は、かかりつけ医などに相談の上、抗体検査や予防接種の検討をお願いします。

4 長野県で行っている風しん抗体検査事業

県内の保健所(保健福祉事務所)で、妊娠を希望される女性及び風しん抗体価の低い妊婦等の配偶者・同居家族の方は風しんの抗体検査を無料で受けることができます(但し、風しん抗体価検査を受けたことのある方、予防接種を受けたことのある方、風しんにかかったことのある方は対象外となります)。

詳しくは、お近くの保健所(保健福祉事務所)にお問い合わせください。

長野県ホームページ「風しんについて」もご覧ください

<http://www.pref.nagano.lg.jp/hoken-shippei/kenko/kenko/kansensho/joho/rubella.html>